

ポスター | 標準化

ポスター4 標準化

2019年11月23日(土) 10:00 ~ 11:00 ポスター会場1 (国際展示場 展示ホール8)

[3-P1-2-03] JLACコード対応表に基づいた医療機関へのJLACコードの有効な普及に向けたアプローチ

○山上 浩志¹、山田 修²、康 東天³、中島 直樹⁴ (1. 医療情報システム開発センター, 2. 岡崎市立愛知病院医療技術局, 3. 九州大学大学院医学研究院, 4. 九州大学病院メディカル・インフォメーションセンター)

キーワード : Clinical Coding, JLAC10, JLAC11, In Vitro Diagnostics

医療機関におけるJLACコーディング作業の課題解決を目的に、体外診断用医薬品情報とJLAC10/11コードを対応付けた「JLACコード対応表」（以下、対応表という）を試作し、それを利用することで従来手法に比べコーディング作業の効率性及び正確性が改善することを一昨年の本大会で報告した¹⁾。

これまでに約4,000品目を対応表に反映してきているが、その実用的な利活用に向けて、標準コード化が特に期待される臨床検査項目に絞り込んだ抜粋版を作成した。

項目選定にあたっては、臨床検査項目標準マスター運用協議会で作成されたJLAC10運用事列表（4病院（大学2／公立1／研究所1）で実施された上位97%項目）、2010年度医療情報化促進事業・診療検査基盤整備事業で作成された標準化マスターコード一覧（某衛生検査所が診療所から受託した上位99%項目）、特定健康診査項目、6臨床学会（日本糖尿病学会、日本高血圧学会、日本動脈硬化学会、日本腎臓病学会、日本臨床検査医学会、日本医療情報学会）が作成した4疾患自己管理項目セット項目、及び、幾つかの研究プロジェクトにおける収集対象項目を参考に約120項目を選んだ。

こうしたアプローチにより、医療機関が行うJLACマッピング（施設固有なローカルコードのJLACコードへの対応付け）作業に際し、作業の着手順を考える上で参考になるほか、各種データベース事業においては、共通の検査項目について精度良いデータをより多くの施設から収集することが期待できる。

1) 山上浩志, 平松達雄, 山本隆一. JLACコーディングにおける体外診断用医薬品情報とJLACコードとの対応表の有効性評価. 医療情報学2017 ; 37 (Suppl.) : 1194-1196.

JLAC コード対応表に基づいた医療機関への JLAC コードの有効な普及 に向けたアプローチ

山上 浩志 *1、山田 修 *2、康 東天 *3、中島 直樹 *3

*1 医療情報システム開発センター、*2 岡崎市立愛知病院、*3 九州大学病院

Approach toward Effective Widespread Use of Japan Laboratory Code (JLAC) in Medical Institutions Based on a JLAC Code Table Corresponding to In Vitro Diagnostic Information

Hiroshi YAMAKAMI *1, Osamu YAMADA *2, Dongchon KANG *3, Naoki NAKASHIMA *3

*1 Medical Information System Development Center, *2 Okazaki Municipal Aichi Hospital, *3 Kyushu University Hospital

Japan Laboratory Code (JLAC) is a standard code used to identify clinical test items, including information such as analytes, specimen materials and analytical methods. However, it is still not well recognized and not widely used in medical institutions either. One of the main reasons of current situation is that many medical facilities face difficulties to secure enough human resources to associate JLAC code correctly with localized codes which have been used there. We have proposed a method of selecting JLAC code led from In Vitro Diagnostics (IVD) information such as identification number and product name, and have clarified that it can make JLAC coding work more accurately in less time comparing to conventional methods had ever done (refer to JCMI37 article in 2017). We have made a code table including JLAC10 and JLAC11 code corresponded to each IVD product (approximately 4,800 products) as a basis for the method, and also selected approximately 120 clinical test items which is highly expected to be standardized from the table, to make a basic JLAC code set. The code set helps medical institutions decide priorities of implementation for processing clinical test items. As a consequence, it will lead to collect accurate data from more facilities for various database projects.

Keywords: Clinical Coding, JLAC10, JLAC11, In Vitro Diagnostics

1. 緒言

電子カルテシステムが一般病院の 46.7% (医療施設静態調査 (2017 年 10 月) より) に拡がり、そこに蓄積された診療データを多施設から集めて利活用する事例¹⁻⁴⁾が増えている。データ集積が標準用語・コードによって成されることは、臨床データベースが信頼性のあるエビデンス創出に資する情報化基盤となり得るための基本的な要件といえる。

臨床検査項目を識別する標準コード体系には臨床検査項目分類コード (JLAC; 第 10 回改定版を JLAC10 と呼称する) があるが、各種データベース事業に参加する医療機関を除けば、JLAC10 コードを運用する内発的動機付けに乏しく、未だ十分な普及に至っていない。また、JLAC コーディング作業には一定程度の知識・技術を必要とし、各施設で付番された JLAC コードに誤りや施設間で不一致を生じていることが指摘されている。一般財団法人医療情報システム開発センター (以下、MEDIS という) が 2019 年 2 月に行った電子カルテシステム導入病院・臨床検査部門への調査 (有効回答数 256、調査票送付先 1,970) では、自院の検査項目 (ローカルコード) に JLAC10 コードを対応付け (マッピング) していた施設 (一部項目の実施を含む) は 24% で、そのうち作業に必要な資源 (人材や予算等) を確保できていると答えた施設は 26% に留まった。

筆者らは一昨年の本大会において、モノ (体外診断用医薬品) から JLAC コードを導く手法により、臨床検査マスターや JLAC 要素コード表を用いた従来手法に比べ、JLAC コーディング作業の効率が上がり、付番された JLAC コードの正確性も向上することを示した⁵⁾。その手法の要といえる「JLAC コード対応表」は、国内で販売流通されている体外診断用医薬品の添付文書に基づいて JLAC コーディングしたマスターであり、付番対象にした体外診断用医薬品は約 4,800 品目を数える。

今回、JLAC コード対応表をもとに、標準コード化が特に期待される臨床検査項目について JLAC10 及び JLAC11 コードを体外診断用医薬品 (一部、検体検査用医療機器) と対照させて収載した「臨床検査項目基本コードセット」 (以下、基本コードセットという) を作成したので報告する。

2. 目的

JLAC コードを医療機関へ有効に普及させることを目的に、検査項目コードを標準化することが特に有用な検査項目を選定し、それらに対応した JLAC10/11 コードを収載した基本コードセットを作成する。項目選定にあたっては次の視点を考慮する。

- i 診療データの二次利用が特に求められる項目
- ii 診療所、及び、病院で行われる検査頻度の高い項目
- iii 領域に依らず、診療 (診断) に共通的に用いられる項目
- iv 我が国の保健医療政策に通ずる項目
- v 施設間連携 (介護を含む) において特に有用な項目
- vi 検査結果値を比較的長期に亘って観察する項目

3. 方法

基本コードセットに収載する検査項目を次の二段階で選定した。

第 1 ステップでは、臨床検査項目標準マスター運用協議会で作成された JLAC10 運用事例表 (2 大学病院、1 公立病院、及び 1 研究所病院で実施された件数上位 97% 項目)⁶⁾、2010 年度医療情報化促進事業・診療検査基盤整備事業で作成された標準化マスターコード一覧 (某衛生検査所が診療所から受託した件数上位 99% 項目)⁷⁾、特定健康診査項目、6 臨床学会が作成した生活習慣病自己管理項目セット集項目⁸⁻⁹⁾ に表れる検査項目、更に、幾つかの研究プロジェクトで収集対象にしている検査項目を JLAC10-12 桁コード (分析物+識別+

材料要素)で整理した全 386 項目について、3 資料以上に共通した項目 (32 項目)をランク A+、2 資料に共通した項目 (98 項目)をランク A-、1 資料にのみ表れる項目 (256 項目)にはランク B を仮設定した。

第 2 ステップでは、仮ランク付 386 項目を複数の医療従事者に提示し、ランクを変更する/候補から削除する/候補に追加するのが適当な項目について意見聴取した結果を反映させた。その際、作業には基本コードセット作成の趣旨、基本方針とともに各ランクの定義と項目数の目安(ランク A+: 有用度合が非常に高い検査で 30 乃至 50 項目、ランク A-: 有用度合が高い検査で 50 乃至 100 項目、ランク B: 有用度合がやや低い検査で 150 乃至 200 項目)、A+及び A-項目を基本コードセットの対象範囲とすることを説明した。

4. 結果

4.1 選定項目

前述した二段階の作業を経て、ランク A+:48 項目、A-:79 項目、B:251 項目を選定した。表 1 に A+及び A-項目を示す。なお、表では、一部項目について検体種(血液/尿等)、結果表記(定性/定量/半定量)、抗原/抗体等の別を束ねて整理しているため 111 項目となっている。第 2 ステップによって、仮ランクが見直された項目を以下に例示する。

- i 活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT)、プロトロンビン時間:A-から A+へ昇格(凝固検査のスクリーニングとして重要であり、頻度も多いため)
- ii 推定糸球体濾過率 (eGFR):B から A-へ昇格 (CKD の重症度分類において用いられ、重要性が高いため)
- iii HbA1c[JDS]:A-から B へ降格 (2012 年より NGSP 併記となり、JDS での報告が減少しているため)
- iv チモール混濁試験 (TTT)、硫酸亜鉛混濁試験 (ZTT):A-から B へ降格 (平成 30 年度から保険診療の対象外となったため)

また、血算のように一連として行われる検査項目(白血球数、赤血球数と血小板数等)や材料違いによる検査項目(グルコース検査における血漿と全血等)についてランクを統一したほか、血液ガスのように重要な検査であっても詳細項目が未定のためにランク B に区分したものがあ

4.2 基本コードセット仕様

基本コードセットはテキストファイル形式で提供することとし、レコードフォーマットを図 1 のように規定した。各レコードは体外診断用医薬品(または検体検査用医療機器)情報、JLAC11 コード情報、JLAC10 コード情報、診療行為コード情報、管理情報で構成され、表 1 に示す検査項目単位にファイルをダウンロードできるようにする。

5. 考察

5.1 基本コードセットの利用場面

作成した基本コードセットは、検査項目コードを標準化することが特に有用な検査項目に対し、市販されている体外診断用医薬品(一部、検体検査用医療機器)と対照させて JLAC コードを提示した資料であり、医療機関におけるマッピング作業に利用されることを想定している。特に、これから JLAC マッピング作業を予定する医療機関において、基本コードセットに表れる検査項目から作業に着手してもらえるとよい。その結果、JLAC コード運用の行われる検査項目が医療機関で共通化され、各種データベース事業においては、より多くの施設から精度良いデータを集積することにつながると期待できる。

基本コードセットには JLAC10 と並んで JLAC11 コードが収載されている。JLAC11 については一般社団法人日本臨床検査医学会がデータの二次利用に堪えるコード体系としてこれまで開発を進めてきたもので、2019 年 9 月にコード表の公開が予定されている。基本コードセットはそれと同時期に MEDIS から公開していく計画である。なお、JLAC11 に対応するコーディングシステム名として「JC11」が規定されている¹⁰⁾。

5.2 今後に向けた課題

基本コードセットには JLAC10 運用事例の約 82% (項目ベース)、JLAC コード対応表の約 31% (行数ベース)に相当する項目が収載されている。項目を厳選したことにより JLAC コード運用の裾野を広げる効果が期待できる一方で、今後、対象項目の拡大を求める声が予想される。

また、JLAC11 コードと基本コードセットの公開を受けて、現在の標準コードである JLAC10 や厚生労働省標準規格に位置づけられている臨床検査マスターとの関係性と各々の適用場面を利用者に解り易く提示していくことが求められる。

本研究の一部は MEDIS が受託して実施した平成 27 年度内閣官房事業「医療・介護・健康分野の ICT 基盤」における検査データの利活用に関する基礎調査で行われた。

参考文献

- 1) 独立行政法人国立病院機構. 国立病院機構診療情報集積基盤について～電子カルテデータの標準化から利活用へ～. <https://nho.hosp.go.jp/files/000053221.pdf> (cited 2019-Aug-28).
- 2) 厚生労働省医薬・生活衛生局. 医療情報データベース「MID-NET」について. 医薬品・医療機器等安全性情報;No.351 (2018 年 3 月); 3-9. <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11120000-Iyakushokuhinkyoku/0000197516.pdf> (cited 2019-Aug-28).
- 3) 診療録直結型全国糖尿病データベース事業. J-DREAMS. <http://jdreams.jp/> (cited 2019-Aug-28).
- 4) J-CKD-Database. <http://j-ckd-db.jp/> (cited 2019-Aug-28).
- 5) 山上浩志, 平松達雄, 山本隆一. JLAC コーディングにおける体外診断用医薬品情報と JLAC コードとの対応表の有効性評価. 医療情報学 2017;37 (Suppl.):1194-1196.
- 6) 山上浩志, 山田 修, 康 東天, 大江和彦. 「JLAC10 運用事例」作成にあたっての方針と手法. 医療情報学 2014;34 (Suppl.): 210-211.
- 7) 西日本電信電話株式会社. 平成 22 年度医療情報化促進事業(診療検査基盤整備事業)ーどこでも MY 病院構想及びシームレスな地域連携医療の実現に向けた実証事業ー成果報告書. 平成 24 年 2 月. <https://www.nttdata-strategy.com/medit/pdf/240423/4-report.pdf>(cited 2019-Aug-28)
- 8) 6臨床学会. 生活習慣病コア項目セット集(第 2 版)および生活習慣病自己管理項目セット集(第 2 版). http://jami.jp/medicalFields/2018Oct23_02.pdf(cited 2019-Aug-28)
- 9) Nakashima N, Noda M, Ueki K, Koga T, Hayashi M, Yamazaki K, Nakagami T, Ohara M, Gochi A, Matsumura Y, Kimura M, Ohe K, Kang D, Toya Y, Yamagata K, Yokote K, Ikeda S, Mitsutake N, Yamamoto R, Tanizawa Y. Recommended configuration for personal health records by standardized data item sets for diabetes mellitus and associated chronic diseases: A report from Collaborative Initiative by six Japanese Associations. Diabetology International (2019) 10:85-92. <https://doi.org/10.1007/s13340-019-00389-7> (cited 2019-Aug-28)
- 10) SS-MIX2 標準化ストレージ仕様書 Ver.1.2f. <https://www.jami.jp/jamistd/ssmix2.php> (cited 2019-Aug-28)

表 1 臨床検査項目基本コードセットに含まれる検査項目

イ) 一般検査 (尿・糞便)

| 検査項目 | 検体種 | JLAC10-5 (分析物) | 検査項目 | 検体種 | JLAC10-5 (分析物) |
|----------------|-----|-------------------------|--------------|-----|-------------------|
| 1 尿蛋白 | 尿 | 1A990、1A010、1A015 | 5 尿中ウロビリノーゲン | 尿 | 1A990、1A040、1A045 |
| 2 尿糖 (尿中グルコース) | 尿 | 1A990、1A019、1A020、1A025 | 6 尿潜血 | 尿 | 1A990、1A100 |
| 3 尿比重 | 尿 | 1A990、1A030 | 7 尿沈渣 | 尿 | 1A105 |
| 4 尿PH | 尿 | 1A990、1A035 | 8 便中ヘモグロビン | 便 | 1B040、1B042 |

ロ) 血液学的検査

| 検査項目 | 検体種 | JLAC10-5 (分析物) | 検査項目 | 検体種 | JLAC10-5 (分析物) |
|--------------|-----|----------------|----------------------------|------|----------------|
| 1 血算-白血球数 | 血液 | 2A990、2A010 | 9 網状赤血球 | 血液 | 2A110 |
| 2 血算-赤血球数 | 血液 | 2A990、2A020 | 10 血液像 | 血液 | 2A160 |
| 3 血算-ヘモグロビン | 血液 | 2A990、2A030 | 11 活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT) | 血液 | 2B020 |
| 4 血算-ヘマトクリット | 血液 | 2A990、2A040 | 12 プロトロンビン時間 | 血液 | 2B030 |
| 5 血算-血小板数 | 血液 | 2A990、2A050 | 13 フィブリノゲン (Fib) | 血液 | 2B100 |
| 6 血算-MCV | 血液 | 2A990、2A060 | 14 FDP | 血液、尿 | 2B120 |
| 7 血算-MCH | 血液 | 2A990、2A070 | 15 Dダイマー (DD) | 血液 | 2B140 |
| 8 血算-MCHC | 血液 | 2A990、2A080 | 16 アンチトロンビンⅢ (AT-Ⅲ) 活性 | 血液 | 2B200 |

ハ) 生化学的検査

| 検査項目 | 検体種 | JLAC10-5 (分析物) | 検査項目 | 検体種 | JLAC10-5 (分析物) |
|-------------------------------|------|-------------------|---------------------------|------|----------------|
| 1 総蛋白 (TP) | 血液 | 3A010 | 22 尿酸 (UA) | 血液、尿 | 3C020 |
| 2 蛋白/クレアチニン比 (P/C比) | 尿 | 1A990 | 23 尿素窒素 (BUN) | 血液、尿 | 3C025 |
| 3 アルブミン | 血液、尿 | 3A015 | 24 グルコース | 血液 | 3D010 |
| 4 アルブミン/グロブリン比 (A/G比) | 血液 | 3A016 | 25 HbA1c (NGSP) | 血液 | 3D046 |
| 5 アルブミン/クレアチニン比 (A/C比) | 尿 | 1A990 | 26 グリコアルブミン | 血液 | 3D055 |
| 6 クレアチンキナーゼ (CK) | 血液 | 3B010 | 27 中性脂肪 (TG) | 血液 | 3F015 |
| 7 AST (GOT) | 血液 | 3B035 | 28 総コレステロール (T-CHO) | 血液 | 3F050 |
| 8 ALT (GPT) | 血液 | 3B045 | 29 HDL-コレステロール (HDL-C) | 血液 | 3F070 |
| 9 LD (LDH) | 血液 | 3B050 | 30 LDL-コレステロール (LDL-C) | 血液 | 3F077 |
| 10 アルカリフォスファターゼ (ALP) | 血液 | 3B070 | 31 総胆汁酸 | 血液、尿 | 3F110 |
| 11 γ -GTP (GGT) | 血液 | 3B090 | 32 肺サーファクタントプロテインD (SP-D) | 血液 | 3F253 |
| 12 コリンエステラーゼ (ChE) | 血液 | 3B110 | 33 ナトリウム (Na) | 血液、尿 | 3H010 |
| 13 ロイシンアミノペプチダーゼ (LAP) | 血液 | 3B135 | 34 カリウム (K) | 血液、尿 | 3H015 |
| 14 アミラーゼ (AMY) | 血液、尿 | 3B160 | 35 クロール (Cl) | 血液、尿 | 3H020 |
| 15 リパーゼ | 血液 | 3B180 | 36 カルシウム (Ca) | 血液、尿 | 3H030 |
| 16 N-アセチルグルコサミナーゼ (NAG) | 尿 | 3B330 | 37 イオン化カルシウム | 血液 | 3H035 |
| 17 ヘプシノゲン | 血液 | 3B340、3B345、3B341 | 38 血清鉄 (Fe) | 血液 | 3I010 |
| 18 マトリックスメタロプロテイナーゼ-3 (MMP-3) | 血液 | 3B503 | 39 不飽和鉄結合能 (UIBC) | 血液 | 3I020 |
| 19 クレアチニン (Cre) | 血液、尿 | 3C015 | 40 総ビリルビン (T-Bil) | 血液 | 3J010 |
| 20 推定糸球体濾過量 (eGFR) | 血液 | 8A065 | 41 直接ビリルビン (D-Bil) | 血液 | 3J015 |
| 21 シスタチンC | 血液 | 3C016 | 42 間接ビリルビン (I-Bil) | 血液 | 3J023 |

ニ) 内分泌学的検査

| 検査項目 | 検体種 | JLAC10-5 (分析物) | 検査項目 | 検体種 | JLAC10-5 (分析物) |
|-------------------------|------|----------------|---|------|----------------|
| 1 甲状腺刺激ホルモン (TSH) | 血液 | 4A055 | 6 ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG) | 血液、尿 | 4F080、4F081 |
| 2 遊離トリヨードサイロニン (FT3) | 血液 | 4B015 | 7 インスリン (IRI) | 血液 | 4G010 |
| 3 遊離サイロキシニン (FT4) | 血液 | 4B035 | 8 C-ペプチド (CPR) | 血液、尿 | 4G020 |
| 4 副甲状腺ホルモン (PTH) -インタクト | 血液 | 4C025 | 9 脳性Na利尿ペプチド (BNP) | 血液 | 4Z271 |
| 5 コルチゾール | 血液、尿 | 4D040 | 10 ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント (NT-proBNP) | 血液 | 4Z272 |

ホ) 免疫学的検査

| 検査項目 | 検体種 | JLAC10-5 (分析物) | 検査項目 | 検体種 | JLAC10-5 (分析物) |
|-----------------------------|----------|----------------|---------------------------------------|-----|-------------------|
| 1 免疫グロブリンG (IgG) | 血液、尿、髄液 | 5A010 | 19 サイトケラチン19フラグメント (シフラ) | 血液 | 5D325 |
| 2 免疫グロブリンA (IgA) | 血液、髄液 | 5A015 | 20 神経特異エノラーゼ (NSE) | 血液 | 5D410 |
| 3 免疫グロブリンM (IgM) | 血液、髄液 | 5A020 | 21 PIVKA-II | 血液 | 5D520 |
| 4 血清補体価 (CH50) | 血液 | 5B010 | 22 梅毒STS (RPR法) | 血液 | 5E074 |
| 5 補体C3 | 血液 | 5B023 | 23 梅毒TP抗体 | 血液 | 5E075 |
| 6 補体C4 | 血液 | 5B024 | 24 マイコプラズマ抗体 | 血液 | 5E106 |
| 7 β 2-マイクログロブリン | 血液、尿 | 5C065 | 25 (1 \rightarrow 3) β -Dグルカン | 血液 | 5E151 |
| 8 C反応性蛋白 (CRP) | 血液 | 5C070 | 26 Hbs | 血液 | 5F016 |
| 9 トロポニンT | 血液 | 5C093 | 27 HCV | 血液 | 5F360 |
| 10 トロポニンI | 血液 | 5C094 | 28 HTLV | 血液 | 5F450、5F460 |
| 11 フェリチン | 血液 | 5C095 | 29 HIV | 血液 | 5F500、5F550、5F560 |
| 12 シアル化糖鎖抗原KL-6 | 血液 | 5C210 | 30 抗核抗体 | 血液 | 5G010、5G011 |
| 13 癌胎児性抗原 (CEA) | 血液、乳頭分泌液 | 5D010 | 31 抗DNA抗体 | 血液 | 5G020 |
| 14 α -フェトプロテイン (AFP) | 血液、羊水 | 5D015 | 32 リウマトイド因子 (RF) | 血液 | 5G160 |
| 15 CA125 | 血液 | 5D100 | 33 抗TSHレセプター抗体 (TRAb) | 血液 | 5G310 |
| 16 CA19-9 | 血液 | 5D130 | 34 血液型-ABO | 血液 | 5H010 |
| 17 扁平上皮癌関連抗原 (SCC抗原) | 血液 | 5D300 | 35 血液型-Rh | 血液 | 5H020 |
| 18 前立腺特異抗原 (PSA) | 血液 | 5D305 | | | |

| # | フィールド名 | 文字数 | 文字列長 | 2バイト文字 | 空値 | 説明 | 例示 |
|----|-----------------|-----|------|--------|----|--|--|
| 1 | 管理番号(幹番) | 10 | 固定 | | | 管理番号(幹番) # 1と組み合わせてレコードを一意に識別するために用いる | 2019-999LM |
| 2 | 管理番号(枝番) | 4 | | | 可 | 体外診断用医薬品(または検体検査用医療機器)の承認、認証または届出番号 複数あった場合には「～」で連結する | 1 |
| 3 | 体外診断薬(承認番号) | 255 | | 可 | 可 | 体外診断用医薬品(または検体検査用医療機器)の販売名 | 21300AMY99999000 |
| 4 | 体外診断薬(販売名) | 255 | | 可 | 可 | 体外診断用医薬品(または検体検査用医療機器)の一般名 | イロハ試薬 FT4 |
| 5 | 体外診断薬(一般名) | 255 | | 可 | 可 | 体外診断用医薬品(または検体検査用医療機器)の一般名 JMDNコードと一般名を「～」で連結して表記する。複数あった場合には「～」で連結する | 303090000<遊離サイロキシニン>キット~80054003<ヘパリン入り>・生化学・免疫・内分泌検査用シリウス |
| 6 | 体外診断薬(製造販売業者) | 255 | | 可 | 可 | 体外診断用医薬品(または検体検査用医療機器)の製造販売業者 | アイエウエ株式会社 |
| 7 | JLAC検査名称 | 255 | | 可 | | JLAC検査名称 | 遊離サイロキシニン (FT4) |
| 8 | JLAC10-17 | 21 | 固定 | | | JLAC10の5要素(# 9, 11, 13, 15, 17)を「」で連結した文字列 | H2006-0401-250-002-C2 |
| 9 | JLAC11-測定物 | 5 | 固定 | | | JLAC11の第1要素(測定物)コード | H2006 |
| 10 | JLAC11-測定物(名称) | 255 | | 可 | | # 9に対応した名称 | 遊離サイロキシニン |
| 11 | JLAC11-識別 | 4 | 固定 | | | JLAC11の第2要素(識別)コード | 0401 |
| 12 | JLAC11-識別(名称) | 255 | | 可 | | # 11に対応した名称 | 測定値 |
| 13 | JLAC11-材料 | 3 | 固定 | | | JLAC11の第3要素(材料)コード | 250 |
| 14 | JLAC11-材料(名称) | 255 | | 可 | | # 13に対応した名称 | 血清 |
| 15 | JLAC11-測定法 | 3 | 固定 | | | JLAC11の第4要素(測定法)コード | 002 |
| 16 | JLAC11-測定法(名称) | 255 | | 可 | | # 15に対応した名称 | 化学・生物発光イムノアッセイ (ECLIA) _イロハ試薬 FT4 |
| 17 | JLAC11-結果単位 | 2 | 固定 | | | JLAC11の第5要素(結果単位)コード | C2 |
| 18 | JLAC11-結果単位(名称) | 255 | | 可 | | # 17に対応した名称 | ng/dL |
| 19 | JLAC11-材料(2) | 255 | | 可 | | JLAC11の第3要素(材料)について、その他の材料を記載 「コード」で表記し、複数あった場合には「～」で連結する | 240<血清>~242<血清 (EDTA入り) ~243<血清 (ヘパリン入り) ~244<血清 (クエン酸入り) |
| 20 | JLAC11-結果単位(2) | 255 | | 可 | | JLAC11の第5要素(結果単位)について、その他の単位を記載 「コード」で表記し、複数あった場合は「～」で連結する | E6<pmol/L |
| 21 | JLAC10-17 | 21 | 固定 | | | JLAC100の5要素(# 22, 24, 26, 28, 30)を「」で連結した文字列 | 4B035-0000-023-053-01 |
| 22 | JLAC10-分枝物 | 5 | 固定 | | | JLAC10(第1要素)識別コード | 4B035 |
| 23 | JLAC10-分枝物(名称) | 255 | | 可 | | # 22に対応した名称 | FT4 |
| 24 | JLAC10-識別 | 4 | 固定 | | | JLAC10(第2要素)識別コード | 0000 |
| 25 | JLAC10-識別(名称) | 255 | | 可 | | # 24に対応した名称 | 023 |
| 26 | JLAC10-材料 | 3 | 固定 | | | JLAC10(第3要素)材料コード | 血清 |
| 27 | JLAC10-材料(名称) | 255 | | 可 | | # 26に対応した名称 | 053 |
| 28 | JLAC10-測定法 | 3 | 固定 | | | JLAC10(第4要素)測定法コード | 化学・生物発光イムノアッセイ (ECLIA) |
| 29 | JLAC10-測定法(名称) | 255 | | 可 | | # 28に対応した名称 | 01 |
| 30 | JLAC10-結果識別 | 2 | 固定 | | | JLAC10(第5要素)結果単位コード | 定値 |
| 31 | JLAC10-結果識別(名称) | 255 | | 可 | | # 30に対応した名称 | 022<血清 |
| 32 | JLAC10-材料(2) | 255 | | 可 | | JLAC100の第3要素(材料)について、その他の材料を記載 「コード」で表記し、複数あった場合は「～」で連結する | 160033310 |
| 33 | 保険・診療行為コード | 9 | 固定 | | 可 | 医療診療行為マスタに表れる診療行為コード | 遊離サイロキシニン (FT4) |
| 34 | 保険・診療行為名称 | 255 | | 可 | 可 | 医療診療行為マスタに表れる漢字名称 | 130 |
| 35 | 保険・点数 | 8 | | 可 | 可 | 医療診療行為マスタに表れる点数 | |
| 36 | 備考-体外診断薬 | 255 | | 可 | 可 | # 3~6に関連した備考 | |
| 37 | 備考-JLAC | 255 | | 可 | 可 | # 7~32に関連した備考 | |
| 38 | 備考-保険 | 255 | | 可 | 可 | # 33~35に関連した備考 | |
| 39 | 更新区分 | 1 | 固定 | | 可 | レコード更新事由(新規:3, 修正:5, 削除:1) | 3 |
| 40 | 更新日付 | 8 | 固定 | | | レコード最終更新日付 (YYYYMMDD) | 20190801 |

データはテキストファイルで提供される。レコードを構成するフィールド間の区切りには「|」を用いる。各レコードは改行により終端する。
(例示)

2019-999LM|1|21300AMY99999000|イロハ試薬 FT4|303090000<遊離サイロキシニン>キット~80054003<ヘパリン入り>・生化学・免疫・内分泌検査用シリウス|遊離サイロキシニン (FT4) |H2006-0401-250-002-C2|H2006|遊離サイロキシニン
|0401|測定値|250|血清|002|化学・生物発光イムノアッセイ (ECLIA) _イロハ試薬 FT4|C2|ng/dL|240<血清>~242<血清 (EDTA入り) ~243<血清 (ヘパリン入り) ~244<血清 (クエン酸入り) ~244<血清 (ヘパリン入り) ~244<血清 (クエン酸入り) |E6<pmol/L|4B035-0000-023-053-01|4B035|FT4|0000|023|血清|053|化学・生物発光イムノアッセイ (ECLIA) |01|定値|160033310|遊離サイロキシニン (FT4) |130|||130|||130|20190801

図1 臨床検査項目基本コードセットのレコードフォーマット